障がい理解シンポジウム２０１２in 柏

報告書

テーマ
「障がいのある人や家族の孤立について」

主催　障がい理解推進チームWa’s　　後援　柏市

日　時　平成24年10月19日（金）　グループ討議　10時～12時半　交流会　12時半～15時

会　場　沼南社会福祉センター　3階　会議室

●スケジュール

10時00分	○オープニング グループ討議 「障がいのある人や家族を孤立させないためにはどうしたらよいのか？」 ○自己紹介タイム（氏名、お住まい、障害の種類と程度など） STEP1　障害から生じる問題を考える　「どのような問題があるのか？」 STEP2　孤立の原因を探る　「なぜ孤立は起こるのか？」 STEP3　孤立の対策を考える　「孤立をさせないためには？」 ＊数人のグループをつくり、コーディネーター（福祉関係者）と、テーマに沿って討議し、原因対策の立案と情報の共有化を図ります。
12時30分 15時	交流会（昼食） 昼食を取りながら、テーマにとらわれず、自由討議を行います。 この機会に障害福祉ネットワークを構築してみてはいかがですか？ ○クロージング

●コーディネーター

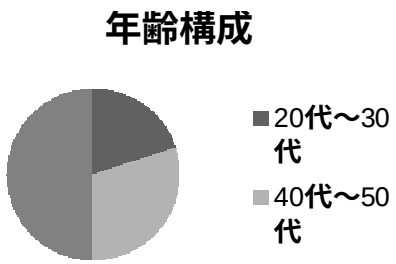
A班　NPO法人権利擁護あさひ　相談支援専門員　吉川英夫さん

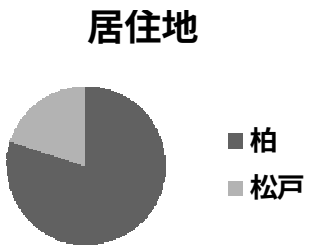
B班　株式会社Advance　社長　石塚隆昭さん

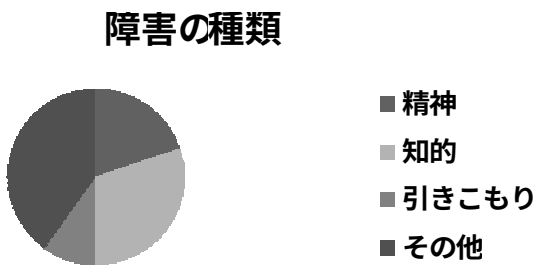
●ご参加者

A班（5名）　男性（1名）（精神家族）　女性（4名）（精神本人1名、知的家族2名、相談員1名）

B班（5名）　男性（3名）（知的家族1名、ボランティア、ひきこもり本人）　女性（2名）（相談員1名、市民活動レポーター1名）







グループ討議　A班

STEP1　障害から生じる問題を考える　どのような問題があるのか？」

＊障害が原因と思われる実際に生じた問題を書き出し、共通項目でまとめる。

●友人 知人の問題

- 同じ境遇の保護者との付き合いが多くなる
- 本当は電話をされるのはいやなのではないかと思ってやめた
- 友達に連絡を取るのが面倒になった
- 出かけられなくなったため会うことがなくなった
- 友人と思っていた人にお金をだまし取られた
- 話題も限られてくる
- 距離を置かれる
- 腫れ物に触る感じ
- 宗教にやたら誘われる

●社会 会社の問題

- 会社で仲間外れになった
- 障害があるため「就労できるはずがないよね」とハローワークの講座を辞めさせられた
- 障害と年齢が重なり仕事が見つからない
- 就職ができない
- ゴミ当番等ができないので町内会を辞めたら挨拶をしてもらえなくなった
- 家族で保険に入っていたとき、障害のある子のみ適応外の念書を書かされた
- 保育園の入園について申請を却下された
- 学童保育も却下された
- 就学は特別支援学校と言われた
- 親や教師が枠に当てはめようとする（自主性が育たない）
- 子どもの問題行動で責められたり怒られたりする
- 情報が入らない
- 保証人がいないとアパートを借りることができない
- 集合住宅に住みにくい

●家族 親戚の問題

- 自分の親戚には子どもの障害のことは全く話していない
- 家族に精神病の者がいるのは迷惑と言われた
- 高齢の母に会いたいと思って里帰りをしても喜ばれない
- 同居を拒否された
- 介護を拒否された
- 障害が理由で離婚をした
- 障害年金は家族の生活費になっている
- 親戚に（障害を説明する）チラシをまいたら父が病んでしまった
- 母親がうつになってしまった

- 少しずつ回復するにつれて自分の思いを表出するようになってから、夫が喜ぶようになった

●自分自身の問題

- 他人（社会）との接点を自分から求めようとしない
- 生きる意欲を持てない（何のために生きているのか）
- 自分が役に立たないダメな人間だと思い込んでいる
- 他人や病前の自分と比較して自己評価をしてしまう
- 自分自身を客観的に見ることができない
- いつも他人の目を気にしながら生きている
- 自信が持てない
- 困っているがどうしたら良いのかわからない
- 考えがまとまらない
- 心身のコントロールが苦手になる
- コミュニケーションが苦手になる
- 自己主張ができない（親や教師に反抗しない）
- 生活リズムが安定しない
- 警戒心が強くなる（ひきこもる）
- お金が無い

アンケート結果

グループ討議（午前）…82点/100点　交流会（午後）…90点/100点

◎ご感想

- 事業所（ケースワーカー・スタッフ・家族・同業者など）、多様な意見等（アドバイスを含め）拝聴することができ有意義でした（3件）
- いろいろな立場の方のお話が伺えてとても勉強になりました（3件）
- 今日のように実際に悩んでいる家族の話を聞く機会があったら良いと思います（2件）
- かなり突っ込んだ話し合いで、少し方向性が見えていたように思います
- グループ討議、ワークショップ形式が良かった
- 自分の話を聞いてもらえて良かった
- 次回も是非参加したい
- 制度も変わってきているので、上手に利用することや、そこからもれるニーズについてサービス事業者に融通をきかせてもらい利用することが必要だと思った
- お疲れ様でした。今後もがんばってください
- ありがとうございました（2件）

STEP 2　孤立の原因を探る　　なぜ孤立は起こるのか？」　　A

＊孤立の原因を考え、共通項目でまとめる。

●障害の理解不足が原因

- 障害について当事者以外はほとんどわからない　理解が浅い
- 精神障害に対する差別と偏見が強い
- 　なんとなく・・」という偏見がある
- 疾病についての正しい知識が無い
- 学校は社会の縮図で強者が中心になっている
- 学校が学力中心になっている
- 役所の職員の理解が浅く、担当者に温度差がある
- 障害特性を伝えてもわがままさせていると思われてしまう
- どうして問題行動が起こるのかがわからない

●社会制度が原因

- 医療 福祉共に本人が動かないとタッチしてくれない
- 制度は枠、サービス利用は申請主義
- 情報が伝わらない、情報提供の方法を考える
- 行政は 自立」 就労」と言いすぎる
- つらい思いをして働くよりも、障害年金の方が楽だから
- 社会資源の引き継ぎが不十分
- 当事者を 社会」に合わせようとしているのでは

●自分 家族が原因

- 競争社会の中で、その競争に参加することで精一杯でゆとりがない生活
- 子の問題行動を恐れて外出しない
- 何でも一人でやっている気持ちになってしまう
- 周りは分かり合えないと思ってしまう
- 家族や役所の人間は何も知らない　上から目線と思い込んでいる
- 家族も障害が理解できなくて辛く当たる
- 家族の理解不足
- 家族の理解がない
- 病気を認められない
- 社会制度を利用しようと思わない
- 親 兄弟から連絡がない

●その他

- 相談に乗ってくれる人がいない
- いろいろ言う人はうっとうしがられる
- さわらぬ神にたたりなし？
- 総論=賛成　各論=反対

STEP 3　孤立の対策を考える　「孤立をさせないためには？」　A

＊最重要原因を解決するための対策を考え、共通項目でまとめる。

●理解不足の対策案

- 市役所の職員に実態を理解してもらうため当事者の話を聞く機会を設ける
- 学校教育の中に障害理解教育を取り入れてもらう
- 義務教育の中で障害理解を取り入れる
- 精神障害は誰でも起きることを市民に知らせる
- 町会 老人会ほか短い時間でも障害理解の話を聞いてもらう
- 地域のイベントなどにできる範囲でよいから参加していく
- 理解したいと思っている一般人と知り合う
- 障害者の相互理解を深める
- 障害理解の活動を応援する

●社会制度の対策案

- 行政の意識を変える
- 「心のバリアフリー」運動を行政に働きかける
- 子育て 老人を含めた地域の見守りシステムを作る
- 老人福祉と同じようにする
- 就労を斡旋サポートしてくれる事業所を増やす
- 成年後見人制度
- 相談員の活用
- 学校制度の橋渡し
- アウトリーチ[英語で手を伸ばすことを意味する。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で多用される]
- 行政の縦割りに応じて、障害者も縦割りになっていないか

●自分 家族の対策案

- 障害をオープンにする
- どこでもだれでも特性の話をする
- 子どもは親の所有物ではないという意識の徹底
- 家族(親子)で互いに独立した人格として認め合うこと
- 家族自身も障害者差別意識に捕らわれている
- どういうことを理解して欲しいか知っておく
- 教員や支援者を信頼してみよう
- 市の広報は要チェック
- 自分のできることは快く引き受ける　自分を肯定できる
- 納税をしよう

グループ討議　B班

STEP1　障害から生じる問題を考える　どのような問題があるのか？」

＊障害が原因と思われる実際に生じた問題を書き出し、共通項目でまとめる。

●友人 知人の問題

- Ÿ　親しい人が会うのを避けるようになった
- Ÿ　友人知人に金銭を搾取される（軽度知的障害の場合）
- Ÿ　友人知人が離れていく（中度知的障害の場合）
- Ÿ　友人知人と疎遠になる（重度知的障害の場合）
- Ÿ　交際が狭くなった

●社会 会社の問題

- Ÿ　コミュニケーションや感情コントロールができず解雇された
- Ÿ　社会的スキルが足りず就職できない
- Ÿ　能力に合った仕事が見つからない
- Ÿ　障害が原因で仕事を見つけるのが困難

●親戚 家族の問題

- Ÿ　家族 親戚から見放される
- Ÿ　家族や親戚からの金銭的搾取
- Ÿ　親子での共依存関係
- Ÿ　障がいのある子が生まれたため離婚 離別
- Ÿ　家族が私に乱暴にふるまうようになった
- Ÿ　二人で撮った写真を破られた
- Ÿ　家族を嫌がるようになった
- Ÿ　家族の酒量が増えてきた

●自分自身の問題

- Ÿ　上手にコミュニケーションが取れず引きこもりがちになった
- Ÿ　家にこもるようになった
- Ÿ　対人関係の不安
- Ÿ　自己肯定感の低下
- Ÿ　周囲の人に迷惑をかける

●将来への不安

- Ÿ　私の死後の面倒は誰が？
- Ÿ　親亡き後の生活は？
- Ÿ　親亡き後の収入は？

STEP 2　孤立の原因を探る　　なぜ孤立は起こるのか？」　　B

＊孤立の原因を考え、共通項目でまとめる。

●障害の理解不足が原因

- 障害に対する理解対処などの啓蒙不足
- 障害者=異常者扱い
- 理解不足が差別につながり孤立へ
- 接する機会の不足　イメージが先行
- 障害者を見下す　自分が優れている偉い 正しいと思っている人が多い
- 障害者を干渉する
- 健常者が障害者に対し意識をおかない
- 健常者は自分自身の事しかとらえない
- ステイグマ偏見　ステイグマ・・ギリシャ語で、奴隷や犯罪者の身体に刻印された徴（しるし）の意）

●社会制度が原因

- 障害者と接する場が少ない　障害者に慣れていない
- 施設不足（同じ立場の人と出会う機会が少ない）
- 人資源などの不足
- 縦割りの福祉サービス　行政サービス
- 制度ありきの社会　前提制度
- 教育が違っている　健常者ばかりを対象にしている
- 現代教育
- 多様性を認めない社会
- 世の中の変化　ネット社会　核家族化
- 雇用の基準（企業が採用したい人材の偏り）
- メディアによるイメージ（障がい者の描かれ方）

●自分 家族が原因

- 障害があることを認められない 恥ずかしい
- 社会に出ることが怖い
- 人と関わることが怖い
- 臆病
- 対人関係
- 精神の場合周囲の目を気にして自ら避けてしまう
- 自分の問題を訴える気力能力がない
- 友人ができない
- 自己本位
- 利己主義
- 本人 家族の生活能力、問題解決能力の低さ
- 長期的な視点で生活する考えができない
- 孤立をしているということに問題を感じない

STEP 3　孤立の対策を考える　「孤立をさせないためには？」　B

＊最重要原因を解決するための対策を考え、共通項目でまとめる。

●理解不足の対策案

- 小さい頃からの教育に障害を取り入れる
- 障害者と接する機会を学校教育に取り入れる
- 障害理解を義務教育に徹底する
- 子どもの時から(障害)教育をする
- 「いのちの教育」の徹底
- 単なる理解推進の啓蒙活動にとどまらない　ふれあいの場を作る

●社会制度の対策案

- 障害者と健常者が共存していける社会づくりを
- 障害者が暮らしやすい環境をつくる
- 障害者と健常者を分けない　施設とかでなく交わって生きる
- 障害者を個別扱いしない社会
- 障害のある方や友人と接する機会の提供 制度化
- 学校や企業でも障害者と交流する機会をつくる
- 小中学校で障害福祉ボランティアを実施する
- マスメディアを使った啓蒙活動をする
- メディアで障害をオープンにする
- 効率主義から共存主義へ
- 日本国憲法をこども時代から学ぶ
- 日本国憲法の年代別（こども小学生 中学生 成人）
- 人権 権利擁護教育を普及する
- 成人式の記念品として「人権読本」を配布する

●自分 家族の対策案

- 自分自身の事として考える　許しあう
- あるがままを受け入れる　認める
- 与えることに意識を置く　愛を意識する
- 愛情を持って接する
- 特別な目で見ない=誰もが特別な存在である=誰もが特別ではない
- 違いを大切にする
- 理解しつつも温かい目で見守ってあげる　干渉しない

交流会

参加者全員でテーマにこだわらずフリーディスカッションをする。
様々な話題で盛り上がりましたが、下記 3 点を記載します。

ケーススタディ①　妻が認知症

様々な精神や老人のデイサービスに行ってみるが、若い人や元気な人ばかり。本当に認知症を理解し合え、妻が納得する居場所はないものか？
参加者から「ここは？」「あそこは行った？」と、様々な意見がありましたが、まずは福祉よろず相談所の「あいネット」さんに聞いてみてはいかがですか？となりました。

ケーススタディ②　精神障害者家族会と精神医療

家族会の現状と精神医療のお話をいただきました。会員登録は150 名ですが、会合には毎回 7～8 名程度の参加。精神の家族の方は、あまり外に出ない傾向にあり、自ら孤立する方が多い。
また、精神障害の半分は発達障害の可能性がある。精神障害と発達障害を見分けられる(判断できる)医者は少なく、服薬中心の治療のため、なかなか改善しにくい現状である。
今後は精神だけではなく、様々な機関と連携していく必要がある。

ケーススタディ③　引きこもり工本人の話

20 年以上家に引きこもっていた。引きこもりの原因をすべて親のせいにして、自分は被害者だという意識でいた。数年前に「神との対話」（サンマーク出版）を読んでから意識が変わり、自分の役割は愛を説くことだと気がついた。今年の春から、少しずつ外に出てみるようになり、今回のシンポジウムは3 回目。また、障害者への特別扱いとなることから、施設の入場割引などの障害者割引は必要ないとのご意見。

所感

今回初めてのシンポジウム。どんな流れになるのか、どんな結末になるのか、ドキドキワクワクでありましたが、コーディネーターの吉川さん、石塚さん、そしてご参加者の皆様のご協力の元、スムーズにかつ濃密な討議ができ、大変嬉しく思っております。本当にありがとうございました。

討議中に上がった「金銭的搾取」や「孤立に問題を感じない」というキーワードに軽いショックを受けましたが、「小さい頃からの障害理解教育の必要性」や「有名人からの障害理解発信」など、私が求めているキーワードも上がり、「私ひとりじゃない。皆もそう感じているのだ」と大きな勇気をいただきました。

ワズは障害理解をテーマに活動をしています。全ての人が「障害とは？」「障害者とどう接すれば良いのか」を理解すれば、世の中の悪しい事件が激減すると考えています。

今後も障害理解の普及推進のため活動をしていく所存でございますので、引き続きご支援ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

障がい理解推進チームWa s
代表　大隣裕子